

(2) 施策の方針

第2章 歴史を継承し、文化を創造するまち

分野(2) 文化

施策の方針① 文化活動の支援・推進

< 目標とすべきまちの姿 >

文化活動の場や機会の提供、市民の自主的文化活動や若い世代への文化活動の支援、さらに、文化施設等の連携や、市民・事業者・NPO等の連携によりさらなる文化活動の推進が図られています。文化施設は、鎌倉市公共施設再編計画基本方針に基づき整備され、文化資源が適切に整理・保存・活用されています。

1 事業評価結果一覧表

経営企画部

評価対象事業名		決算値 (千円)	総事業費 (千円)	26年度 職員数 (人)	今後の方向性	
整理番号	事業名				事業内容	予算規模
経企-22	文化行政推進事業	7,483	21,143	1.8	a	C
経企-23	川喜多映画記念館等管理運営事業	37,138	43,209	0.8	a	C
経企-24	鎌倉芸術館管理運営事業	373,985	388,404	1.9	a	A
経企-25	美術館建設準備事業	2,170	2,929	0.1	b	B
経企-26	鏑木清方記念美術館管理運営事業	46,559	51,871	0.7	b	B
経企-27	文学館管理運営事業	71,059	76,371	0.7	b	B

2 平成26年度末の目標

経営企画部

鎌倉市の芸術文化の発信拠点である文化施設(川喜多映画記念館、鎌倉芸術館、鏑木清方記念美術館、文学館)において、指定管理者により効率的な管理運営を実施するとともに、施設の適正な維持管理を図っていく。鎌倉芸術館においては大規模修繕の実施に向け、PFI事業の導入に向けた検討を進めた。
市民文化祭の見直しを行うとともに、若い世代の文化活動に対する顕彰や芸術文化活動等の支援をしていく。

3 平成26年度の取組の評価

経営企画部

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善

各文化施設で実施される各事業の充実、適正な管理運営を図るため、指定管理者と定期的に協議を行った。鎌倉芸術館の適正な維持管理を行うため、大規模修繕等を行うPFI事業の導入に向けた検討を進めた。
市民文化祭の見直しを進める一方、若い世代の文化活動の顕彰、芸術文化活動支援を実施した。

4 今後の方向性

経営企画部

各文化施設の適正な管理運営を図るとともに、指定管理者との連携により各施設の特性に適った事業の充実を図る。PFI事業の導入により芸術館の大規模修繕及び効率的な管理運営を図る。
文化事業の効率的且つ効果的な手法を検討するとともに、市民の文化活動の活性化を図っていく。

5 平成27年度末の目標

経営企画部

指定管理者との連携により、各文化施設の適正な管理運営を図るとともに、市民等のニーズを踏まえ、事業の充実を図る。鎌倉芸術館の大規模修繕の実施に向けPFI事業の導入を進める。
文化祭参加者の負担の見直し等、文化事業の手法の検討をするとともに、市民の文化活動の活性化を図るための事業を実施する。

鎌倉市民評価委員会の評価

1 評価できるところ

- ・若い世代が企画、制作した事業を旧和辻邸で実施する等、課題に沿った事業を行ったほか、市民との協働により、目的に沿って様々な事業を実施している。
- ・市民で構成された実行委員会等と協議し、費用対効果を考慮する等、実施している事業についても分析を図っている。
- ・各施設の管理について、指定管理者への丸投げではなく、様々な意見を聞きながら指定管理者と協議し、企画検討を進めている。
- ・指定管理による文化施設の維持は現状並みの維持で充分理解できる。

2 課題・提言

- ・実施事業が管理(インフラ整備)についてのみであり、運営(サービス提供)についての取り組みがみられない事業が見受けられる。
- ・市民による文化活動の推進にもっと力点を置くべきである。
- ・新たな文化の創造の視点から事業の見直しが必要と考える。
- ・文化活動だけを取り上げているが、ほかの市民活動との関係、連携を強化し、新たな文化の創造、さらなる文化活動の推進を図る必要があるのではないか。
- ・平成26年度事業実施にあたっての課題と取組、平成27年度の未解決の課題が全て一緒である事から、何ら実績が認められない。